

# 平成29年度 柏崎技術開発振興協会 事業計画

## 【概要】

当協会事業の柱となっている技術者育成支援事業「マイスター・カレッジ」は、長期研修が9月で12期目を迎える。藤田アドバイザー、山崎コーディネーター両氏による運営・指導体制を継続し、若手技能者の育成に取り組むとともに、近年受検者数が減少傾向にある技能検定への挑戦を積極的に後押しする。

企業の受注開拓支援策としては、見本市への共同出展を行う産地PR事業として、過去の実績から成果の大きかった「機械要素技術展」について、4月名古屋、6月東京、10月大阪の3会場に出展するとともに、新たに、市の産業振興に係るネットワーク団体のひとつである川崎市主催の「テクノトランスファーinかわさき」にも出展する。

また、新規取引先獲得のためのホームページ制作支援の継続など、地域外からの取引拡大に向けた取り組みを積極的に支援していく。

新たな製品や技術の開発により事業拡大や新分野への参入を目指す企業への支援策としては、引き続き「ものづくりチャレンジ支援事業」の活用を働き掛けていく他、「ものづくり補助金」等各種競争的資金の獲得に挑戦する企業に対し、個社対応で支援を実施していく。

「再生可能エネルギーと蓄電技術応用プロジェクト」においては、製品化の可能性研究に重点を置いた試作開発の構想を固め、具体的な試作の段階に移行する。

## < 事業細目 >

### 1 マイスター・カレッジの実施

◆ものづくり活性化センターを主会場に技能者育成事業（マイスター・カレッジ）を展開する。また、すべての研修は事前にスケジュール化して周知し、受講しやすい環境を作る。

- 《長期研修》 1年の期間をかけ、金属加工に関する知識習得講座と実技研修を実施。
- 《短期・オーダー研修》 期間の短い研修を多数企画する他、事業所のオーダーによる研修を実施。
- 《新入社員研修》 雇い入れ時の安全教育等に力を入れた機械金属版新入社員研修を実施。

◆人材育成アドバイザー及びコーディネーターを配置し、企業ニーズにあった臨機応変な指導・運営体制を整える。

- 《人材育成アドバイザー》 藤田 昇 氏（非常勤）
- 《人材育成コーディネーター》 山崎 俊哉 氏（常勤）

### 2 受注開拓支援事業

◆新規受注開拓や販路拡大を目的に見本市等に出展する事業者に対し、出展料助成による支援を実施。

- 《見本市等出展支援事業》 助成率：小間料や装飾費の2/3 助成上限額：50万円

◆ものづくり産地柏崎をPRすべく、事業者の展示品や説明員と共に各地の工業見本市に出展する。

- 《第2回名古屋機械要素技術展》 4月12～14日 3小間にて出展 7社との共同出展
- 《第21回機械要素技術展》 6月21～23日 3小間にて出展 9社との共同出展
- 《テクノトランスファーinかわさき》 7月12～14日 1小間にて出展 5社との共同出展
- 《第20回関西機械要素技術展》 10月4～6日 2小間にて出展 3社との共同出展

◆ホームページを新設・改良して受注拡大や販路開拓を目指す事業者に対し、助成金による支援を実施。

- 《HP制作支援事業》 助成率：ホームページ制作費の1/2 助成上限額：30万円  
※ただし、ホームページ制作事業者は柏崎市内の事業者に限る。

◆新規取引先開拓に向けたセミナー等を開催。

《研修事業》 新規取引先開拓や受注拡大に繋がる企業向け研修を実施。

### 3 ものづくりチャレンジ支援事業

◆事業所の新技術新製品開発及び生産性改善に対する取り組みに対し、助成金にて支援を行う。

《新技術新製品開発枠》 助成率：助成対象経費の2/3 助成上限額：300万円

《産学共同研究枠》 助成率：助成対象経費の2/3 助成上限額：300万円

《生産性改善枠》※ 助成率：助成対象経費の1/2 助成上限額：50万円

いずれも審査会での審議を要する。ただし、助成額50万円以下は審査会審議を不要とし、理事長承認で可。※生産性改善枠は、従業員50人以下の事業者に限定。

### 4 再生可能エネルギーに関する取り組み

◆「再生可能エネルギーと蓄電技術応用プロジェクト」

東芝製二次電池「SCiB」と再生可能エネルギーとの組み合わせによる“柏崎ならではの”の製品開発の可能性を研究するプロジェクト。29年度は、試作開発のテーマであるハイブリッド型インテリジェント街路灯の試作に着手する。

### 5 相談員事業

◆事業所の経営課題や技術課題、知財課題等の個別課題に対し、案件に応じた専門家等を派遣する。

《相談員事業》 1案件3回まで専門家を無料派遣。それ以上は事業者と専門家の個別契約。

※知財調査案件については1案件1回まで無料派遣。

《提携技術アドバイザー》 堀 裕爾 氏（非常勤）

研究開発等、企業の積極的な取り組みに対し技術的なサポートを行う。また、新潟県工業技術総合研究所、NICO等の関係機関との調整・アドバイスの役割を担う。

### 6 産学連携交流促進事業

◆大学等教育研究機関との交流を促進し、産学連携の事業化を模索する。特に、新潟工科大学とは定期的に情報交換を行って連携を密にする。

◆新潟工科大学の運営による「ものづくり開発塾」により、最新技術を体験する場を提供する。

《ものづくり開発塾》 旬なテーマを題材とした座学・実技講座により開発マインドを醸成する。

開催：年1回 29年度テーマ：未定

### 7 若手人材育成事業

◆柏崎青年工業クラブと連携し、若手経営者や幹部社員の人材育成事業を実施する。

◆ものづくり人材を育成すべく、子ども向け啓発事業を実施する。

《ロボット工作クラブ》 新潟工科大学の学生が小学生にロボットキット製作を教える。小学生のものづくりへの興味喚起に加え、大学生のレベルアップを図る。

《ものづくり工作教室》 小学生を対象に年2回の金属加工体験教室並びにえんま市及び月例の工作教室を開催する。

《中学生職場体験》 当協会がインターンシップ受入事業者となることで、金属加工に触れる機会を提供する。

《高校生工場見学ツアー》 人口減少を背景に製造業の現場においても今後さらに労働者の確保が難しくなると思われることから、高校生とりわけ女性の就業の機会を確保すべく工場見学ツアーを実施する。

## 8 他地域との連携促進

- ◆他の工業集積地域や異業種との交流を促進し、新たなビジネスモデルを模索する。

## 9 関係団体との連携促進

- ◆他の産業支援機関や金融機関、大学等教育機関等との連携を促進し、包括的産業支援体制を構築する。

「ものづくり補助金」等各種競争的資金の申請にあたり、工技総研中越技術支援センター、NICO等の相談員を配置し、個別相談会を実施する。

《新潟県工業技術総合研究所》 主に技術的側面から連携を図る。

《にいがた産業創造機構》 主に経営的側面から連携を図る。

《広域ビジネス応援ネットワーク》 地場の産業支援機能として連携を図る。